TOKAI UNIVERSITY TAKANAWADAI JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

飛躍 HIYAKU

第335号

東海大学付属高輪台高等学校・中等部 学校報

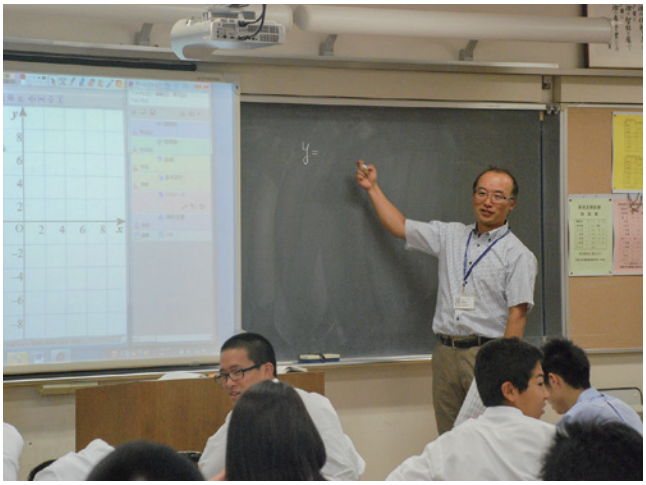
●発行日／2014年9月1日
●発行者/東海大学付属高輪台高等学校・中等部　校長・片桐知己治

「知性と品性、そして感性を」

若き日に汝の思想を培え　Cultivate your thoughts in your early days
若き日に汝の体躯を養え　Nurture your body in your early days
若き日に汝の智能を磨け　Develop your intellect in your early days
若き日に汝の希望を星につなげ　Aim your hopes towards the stars in your early days

TOP＊NEWS

東京私学教育研究所「見学研修会」を開催
― 電子黒板を利用した授業の見学 ―



6月26日午後に一般財団法人東京私立中学高等学校協会　東京私学教育研究所主催の教務運営研究会、情報教育・視聴覚教育研究会による「合同見学研修会」－電子黒板を利用した授業の見学―が本校で実施され、50名を超える私立学校の先生方に参加していただきました。

研究会は、野々村教頭補佐・教務主任による「電子黒板導入プロセスから現在の取り組みについて」の講演の後、5・6時間目に授業見学。山田情報管理室代行による「電子黒板のスペック説明、課題について」の講演の後、質疑応答が行われ、たくさんの質問が寄せられました。

研究会後のアンケートには、

「最先端の授業、今後、ICTを使った授業はこのようなものになっていくのだと感じました～（中略）～授業評価を成績や合格大学で見るのではなく、『興味・関心』という指標で考えているという話にハッとさせられました。子どもにどういう教育をしていきたいのか、その原点を思い出しました」

「アクティブボード導入が早い時期に実施されたのに驚きました」

「電子黒板を特別なものでなく、ごく当たり前に、自然に授業に取り入れていることが非常に印象的でした」

「電子黒板は全教室に入っていて、いつでも全教員が使える状態になってからこそ意味があることがよくわかりました」

などという声がたくさん寄せられました。

高輪台では当たり前のこととなっている電子黒板等で、本当に素晴らしい環境の中にいるのだということを再認識しました。研修会に参加していただいた各学校でも、ICT教育が前進することを期待しています。

第6回 中等部体育祭開催

全員が主役

体育祭実行委員長・白組応援団長
3年B組　ミュウラトゥリスティン　海

ワールドカップで盛り上がる初夏の土曜日。前日に降っていた雨を気にしていましたが、雨が上がってほっとしました。気分は埼玉に向かって一直線でした。

バスの中では和んでいたみんなの雰囲気もグラウンドに着くとピリピリし始めました。3年生だけでなく、全学年が共通の思いを持っていました。「勝利」だ。思い出に残るように。楽しくできるように。人それぞれ思っていることは違っていても、色で集まったときの目標は同じでした。

行進、準備体操が終わり、競技が始まりました。体育祭実行委員として競技の手伝いをしていましたが、みんな笑顔で取り組んでいてうれしかったです。自分たちも競技者の一人でしたが、普段あまりかかわりのない学年を応援したり、応援されたり、最後の体育祭で中等部の団結を感じられました。

一生懸命に練習した応援もトラブルこそありましたが、チームをうまく盛り上げられたと思います。

競技も終わり、結果が発表されましたが、惜しくも白組は負けてしまいました。しかし頑張って作り上げた最高の体育祭は、これからの中等部生活においてのアドバイスをくれました。

『つまずいたときはみんなでカバーする』、学年、クラスに関係なく仲間が困ったときは、応援したり手伝う。結果で勝敗は決まってしまうけれど、全体の絆は深くなると思います。

中等部最後の体育祭は、勝ち負け以上のものを自分に教えてくれました。

応援団長をやってみて

赤組応援団長
3年A組　稗田　裕樹

僕は今年、中等部最後の体育祭で応援団長をやらせてもらいました。

初めは大丈夫かなと毎日のように考えていました。責任のある立場のため、ぼく自身の小さな失敗が大きな失敗につながってしまうこともあるので、慎重に考えました。

また、僕はあまり大きな声が出せない方なので、応援をするときは本当に大変でした。先生からも声が出ていないと言われ、声出しをすることがこんなにも大変なことだと痛感する毎日でした。

応援の演出は3年生のほかの団員と考えました。それを毎日の練習で改良を加え、とても素晴らしいものになったと思っています。ダンスは女子が中心となって考えてくれました。

本当に全員の力がなければできないものだと思いました。赤組の人たちも本当によく盛り上げてくれました。それらの力が集結したからこそできたのだと思います。

先生や友人には本当に感謝しています。今回で中等部体育祭も最後ですが、とても良い思い出になりました。

苦戦したタワー
本番では見事に立ちました！

気持ちをそろえて走った
台風の目

一致団結した応援合戦

赤組優勝

作文コンテスト

中等部では恒例となっている作文コンテストを今年度も実施しました。今回の作文課題は「2020年東京オリンピック・パラリンピックに思うこと」というものでした。中学生の生徒たちにとって、6年後は彼らが大人の仲間入りをしている時期です。また、身体能力も最高潮に達するころで、もしかしたら彼らの中からオリンピック選手が誕生するかもしれません。各学年のグランプリ賞を受賞した生徒の作文を掲載します。

1年グランプリ

1年A組　舘野　明日香

私は、2020東京オリンピックに思うことがあります。それは、「競い合うこと」についてです。このオリンピックに出場する人たちは、みんな努力していると思います。その中で、順位をつけ競い合うのです。みんなが一位であってほしいし、みんながみんな、金メダルを取ってほしい、そう考えてしまう私がいます。けれど、それでは面白くないのです。競い合い、共に切磋琢磨できるライバルがいるからこそ、このオリンピックはたくさんの人の心を動かすのだと思います。「努力が必ず報われるとは限らない。けれど、努力をしなければ、何も始まらない」。本当にその通りだと思います。

努力をしなければ、悲しむこともないけれど、何かを得ることもできない、ということを今までのオリンピックで学びました。今度のオリンピックでも、数々の感動と学びを、私は期待しています。

2年グランプリ

2年B組　江波戸　優真

私たちが住んでいる日本の中心「東京」でスポーツの祭典「オリンピック・パラリンピック」が行われるまであと6年。世界中の人々がこの東京に集まり、一つ一つの競技を目に焼きつける。それまでに私たちがやらなければいけないことがある。

それは、街を美しくすることだ。最近、道を歩いているとタバコ、ペットボトルなどのゴミがあちらこちらに落ちている。何も考えず、小さなゴミだからといって捨てているのだろう。しかし、これが大きな問題になる。外国から来た選手、観光客が道を歩いていて、あちらこちらにゴミが落ちている。どう思うだろう。選手はそれを見たら、イヤな気分になり、試合中、プレーに影響が出るかもしれない。また、外国からの観光客は「東京はゴミがたくさん落ちている」、「もう行きたくない」などとマイナスの思いをさせてしまうだろう。選手にはキレイな気持ちで試合に臨んでほしいし、観光客にもいい気分で観光してもらいたい。そのために今、私たちは「東京をキレイにする」という仕事をしなければいけない。「ゴミを拾え」と言っているのではない。自分で出したゴミは自分が最後まで片づけるということをしてもらいたいと思う。そうすることによって、道に落ちているゴミは少なくなる。今ではゴミを拾っていただいているボランティアさんもいる。

こうした一人ひとりの心がけでゴミは減っていく。そうして「東京」の街がきれいになる。人々の心もキレイになる。そして世界に「日本はキレイ」というイメージを持ってもらえる。時間はまだまだある。一人ひとりの意識を変えていこう。

3年グランプリ

3年A組　高瀬　夏乃

2020年、その年最大のイベントになるであろう、オリンピック・パラリンピックが東京で行われる。今から6年後、私は20歳を過ぎて大学生になっているだろう。今のところ将来に対しての具体性はないが、中学、高校と陸上競技部を続けて、体育系の何かをやりたいと思っている。私の母がスポーツ関連の企業に勤めていた際、運良く長野オリンピックの聖火リレーを任され、走ったらしい。私は小学生のとき、その話を聞いてオリンピックに少し関心を持った。私が覚えている最初のオリンピックは2008年北京オリンピックだ。水泳で北島選手が金メダルを取って泣いていたのを見て、うれしくても泣けるものだと知った。私は14年間うれし泣きをしたことがない。それは多分努力して成功したことがないからだと思う。「努力して成功するとは限らないが、成功したものは必ず努力している」という言葉を聞いたことがある。今の行動が将来に影響するのだから、私は今の中学校生活を精一杯過ごしたい。

前列左から：グランプリ受賞の1年舘野さん・2年江波戸君・3年高瀬さん
後列左から：準グランプリ受賞の1年鈴木さん・2年天野さん・3年寺久保君

学年だより 高1

スポーツ大会

1年生は6月20日（金）にスポーツ大会をアリーナで実施しました。先月5月の湘南校舎見学会に続く大きな行事でした。当日はバレーボール、バスケットボール、ドッジボール、綱引きを行い、戦果に一喜一憂するだけでなく、応援を通して、クラスが一つにまとまりました。

一丸となること

4組　黒木 花菜

今回のスポーツ大会で学んだことは、クラスが一丸となることの大切さです。初めて4組がひとつになるイベントでした。

4組の良いところは、全員が全力で勝ちにいくために本気で戦えるところです。みんなの本気が集まって、結果は良くなかったけれど、楽しい思い出を作ることができました。

私はバスケットボールに出場しました。メンバーは一人を除いて全員が素人だったので、決勝戦には行けないだろうと思っていました。しかし、私たちは決勝戦まで行くことができました。それはみんなが一つになってがむしゃらに応援し、一丸となれたからだと思います。決勝戦では惜しくも勝つことはできませんでしたが、とても良い思い出になりました。

また、10月に行われる総合グラウンドでのスポーツ大会では、優勝できるようにさらに親睦を深めて、精一杯頑張りたいです。

スポーツ大会を終えて

4組　佐々木 美礼

一般的に、スポーツ大会というのは、競技や応援を通してクラスの団結力を高めることができると言われていますが、実際に、私たちはクラスの皆で団結力をより強固なものにすることができました。

私が出場した種目はバレーボールでした。中学生の頃、バレーボール部に所属していたので、試合前のちょっとした練習や、試合そのものに積極的に取り組むことができました。

結果は準優勝になってしまいましたが、皆で一丸となれたので、よかったと思います。また、応援をしてくれるクラスメートがいたから、メンバーも私も頑張れたんだと思います。

日頃の4組はとても騒がしく、学級担任の斉藤先生に毎日毎日注意を受けているクラスですが、いざとなったら、まとまり、何事もやり通すクラスだと実感しました。

また、秋にもスポーツ大会があるので、次は総合優勝と学年主任賞を目指して頑張っていきたいです。

ウオーミングアップ?

競技より食事?

戦いの前に

入れ!

ひと息

力を合わせて

学年だより 高2

研修旅行 ①

6月19日（木）から5泊6日で実施された研修旅行では、
どのコースの生徒たちも普段の学校生活では体験できないさまざまな活動に挑戦しました。
今回から3回に分けて各コースの代表生徒たちの感想をご紹介します。

沖縄コース

8組　中村 莉緒

私は研修旅行で沖縄に行きました。今から69年前に起きた沖縄戦争についてあまり知らなかったのですが、今回の研修旅行で詳しく学ぶことができました。旧海軍司令部壕は壕の中の構造がとても複雑で、当時は今のような機械ではなく、自分たちで作った道具を使って壕を掘ったことにとても驚きました。平和講話では、実際に戦争を体験した方のお話だったので想像以上に衝撃的な内容が多く、当時の悲惨さがすごく伝わってきました。平和学習はとても内容が濃く、初めて知ることや驚いたことが多かったです。今、普通に生きていることが私たちにとって当たり前になっていますが、それはとても幸せなことであり、感謝しなければならないことだと思いました。今まで私が想像していた“戦争”と実際の“戦争”は全く違い、思っていた以上に悲惨なものだったことがわかり、二度と戦争は起こしてはならないと思いました。

また、今回の研修旅行で一番楽しかったことは、初めて体験したスキューバダイビングです。酸素ボンベは予想以上に重く、最初は不安もありました。でも、実際に潜ってみると海はとてもきれいで魚もたくさん見ることができ、思い出に残る研修旅行になりました。

琉球衣装で記念写真

ひめゆりの塔

きれいな海で
マリンスポーツ体験

ハワイHSコース

1組　カールバーグ 高介

私は今回の研修旅行でハワイに行きました。初めの2日間はホテルに泊まり、残りの2日間はホームステイをしました。ホテルに滞在していた期間は主に班行動中心で、ハイキングや海などに行きました。普段あまり話すことのない生徒とも仲良くなることができました。また、パールハーバーでは日本の真珠湾攻撃について学びました。沈んだ船から出続けていた油は生々しいものでした。ホームステイでは現地に住む方の家に泊まり、異なる文化や言語の中で生活しました。初めはとても不安でしたが、少しずつホストファミリーの方々と仲良くなることができました。慣れない英語でのコミュニケーションでしたが、会話ができた時はとてもうれしかったです。今回の研修旅行で、世界にはいろいろな文化があることを学びました。今回学んだことを今後に生かし、人との接し方などを考えながら生活していきたいと思います。

現地大学生と

ダイヤモンドヘッド

フラダンスに挑戦

学年だより 高3

6月5日（木）　特別授業「いのちと心を感じる」

6月5日（木）1時限の学年集会は、ドラマや旅番組などで活躍されている女優の北原佐和子さんによる「プレシャスライフ・いのちと心の朗読会」でした。学年委員の2名も朗読者として仲間入りをさせてもらったこの朗読会では、たくさんの人たちの「物語」に触れました。部活動でのいじめや肉親との死別、そして東日本大震災…生徒たちは真っ暗なアリーナで自分の体験と重ね合わせながら、いのちの重みをかみしめたようです。

2時限は会場を教室に移して、国語科の先生方による研究授業「いのちと心の不思議」。いのちをテーマとした文学作品などを鑑賞しながら、自分が生きていることの意味について考える貴重な時間を過ごしました。

メッセージを朗読する学年委員長の鈴木さん

江口先生は「城の崎にて」を題材に（5組）

北原さんも教室に来てくれました（7組）

生きているって、素晴らしい！

学年委員長・7組級長　**鈴木　結里**

私は今回の朗読会に参加して、自分がいまここに生きていることは素晴らしいことだと改めて感じました。

私がいちばん印象に残っているのは「自殺」という言葉です。これまでニュースではよく聞くけれどあまり自分や周りの人に関係あることとして考えたことはありませんでした。でも、絶対に自ら命を絶ってはいけないと感じました。残された人たちはどんな気持ちになるのか、きっと悲しみと後悔の人生を送らなければいけません。自分の命は自分ひとりのものではないこと、「生きる」ことの重さを感じました。

つらいことや苦しいこともあるけれど、いま友達や家族、先生に囲まれて幸せに生きているこの瞬間が、当たり前ではなく素晴らしいことだと思いました。

いのちを実感した朗読会

学年委員・2組副級長　**小澤　景**

今回は本当に特別な体験をさせていただきましたが、私は北原さんが朗読されていた言葉にはっとさせられました。

私の父親も朗読と同じように、病気で入退院を繰り返しています。たぶん今、私は「実感がない」状態なのだと思います。私は父のお見舞いにあまり行かずに無関心でしたが、この朗読を通して私は後悔をしないよう、父と会い、話をしたいと思いました。

あなたは一体、なんのために生まれてきたのですか？（吉野　弘「I was born」より）

- 私のお父さんとお母さんがお見合いで出会わなければ私は生まれなかったし、他の人と出会っていれば別の子が生まれて来ただろうし……だから、なんのためにというか、キセキ的に生まれてその受け取った命で生きるため――そう思います。（1組・女子）
- いろいろな人と支え合うため。仕事で疲れて帰ってきた親の話を聞き、私がその日学校で感じたことを話す。クラスメートから相談されることもあれば、逆に相談することもある。世界中の誰しも、誰かと関わり合い、支え合っている。（6組・男子）
- 私はなんのために生まれてきたのかわかりません。ただ、いま高校でもいろいろな人と出会えたし、今まで小・中学校で出会ってきた人たちと過ごしてきた思い出を考えると、私は生まれてこられてよかったと思います。（8組・男子）
- お父さんとお母さんとお兄ちゃんに会うため。（5組・女子）
- 私は、親の期待に応えるために生まれてきたのだと思う。だからといって別に全ての要求をのむというわけではないが、少なくとも「元気に育ってほしい」とか「いい子に育ってほしい」などの期待については、私たちは全力で応える義務があると思っている。（2組・男子）
- 正直、わかりません。自分はまだその理由を見つけられていません。それは、自分の生き方が悪かったのかもしれませんが、どのように生きるのかはぼんやりとあります。それは、他人のために生きるということです。どんな形であれ、自分は他人のために生きていきたいです。（9組・男子）
- ふとした瞬間に“自分はなんのために生まれてきたんだろう”と思うことがあり、そのたびに答えを考えてみてはいるのですが、まだ私にはわかりません。でも、なんのために生まれてきたのかを考えるために生まれてきたんじゃないかなとも少し思い始めてきました。これはとても難しい質問のようで、あんがい簡単だったりするのかもしれないと思いました。（3組・女子）
- 死ぬ直前の私に聞いてみてください。（4組・男子）
- 生まれた目的がわかってしまったらそのために生きようとしてしまうと思うから、そんな生き方はつまらないと思います。それに、どんなに考えてもどうせなんのために生まれたかなんてわからないんだから、楽しいことを考えて生きていこうと最近思い始めました。それでも強いて言うなら、家族を助ける、家族と一緒に暮らすために自分は生まれてきました。（7組・男子）

2014年度　小論文コンテスト　表彰

2014年5月20日（火）の2時間目に、「東海大学付属推薦小論文試験」が実施され、同時間帯で、高校1・2年生を対象とした「小論文コンテスト」を行いました。これは、高校3年生と同じ課題・同じ試験時間で600字の小論文に臨む、いわばプレテストです。各学年のグランプリ・準グランプリ作品を紹介します。

課題【「エコ・○○」という言葉を一つ選び、その意味を説明してください。また、なぜこうした言葉が叫ばれるようになったか、その理由や背景について、あなたの考えを述べてください】

高校1年生　グランプリ

1年8組　**綿貫　愛子**さん

「エコ・クッキング」とは、ごみを減らすためにできるだけ食材を無駄なく使ったり、ガスを使う時間を短縮して節約するなど、工夫して調理することである。

ごみ問題はとても深刻なもので、埋め立て地の減少や処理する際の環境汚染などが挙げられる。だから、少しでもごみの量を減らそうと、料理という分野でも工夫していこうという考えが生まれたのだと思う。

私はごみが多いのは、現代の人が昔の人よりも物を大切にしないからだと思う。江戸時代には壊れた茶わんなどを集めて直す人がいたりと、物は使えるだけ使っていたと聞いたことがある。食材も同じで、食べられる部分はできるだけ食べるべきだと思う。しかし、例えば野菜だったら、食べられる所もへたなどと一緒に大きく切り取ってしまっている人は多いと思う。私は小学生の時、学校で行われたエコ・クッキング教室に参加した。そこでは、無駄のない野菜の切り方や捨ててしまうような固い茎や芯などの調理法、ガスを節約できる効率の良い調理の仕方などを学んだ。こういうことをみんなが知っていれば、ごみの削減につながると思う。

「エコ・クッキング」は、ごみを減らすために私たちが簡単にできることの一つだと思う。

これからごみ問題が悪化していくことがないように、「エコ・クッキング」などの自分たちでできることを、もっと広く知ってもらい行動することが大切だと思う。

高校2年生　グランプリ

2年2組　**松岡　瑛紀**君

エコ・カーとは、環境に良い車のことだ。最近、エコ・カーを使っている人が増えてきている。その理由は、おそらく地球環境問題が大きく関係しているのだと私は思った。ガソリンを使って走る車からは、地球環境に非常に悪影響をおよぼす排気ガスというものが排出されているのだ。これは、あまり良いものではない。改善しなければならない問題点の一つであった。

そこで、ここ最近ではガソリンと電気を使って走るハイブリッドカーや、電気だけで走る電気自動車や、水素で走る車などが発売されたのだ。これらの車は、地球環境に非常に優しい車なのでぜひたくさんの人々に使ってもらいたい。

しかし、エコ・カーにも問題点がある。電気自動車は家庭用のコンセントで車を充電することができるのだが、ガソリンを使う車と比較すると、電気自動車は走行距離が長くはないのだ。つまり、車を使って長距離を移動する人は、電気自動車の使用は難しいだろう。

ガソリンを使う車は、ガソリンがなくなったらスタンドですぐに入れることができるのだが、電気自動車は、長時間充電しなければ走ることができないのである。

エコ・カーは環境にはとても良いが、使用者にとっては問題点が多い。今以上にエコ・カーの使用率を上げるには、電気自動車の更なる改善が必要だろう。

高校1年生　準グランプリ

1年6組　**小野　華波**さん

「エコ・キャップ」という言葉を知っているだろうか？

あるいはこの活動をしたことがあるだろうか？

私は、小学生の頃からエコ・キャップを集めていた。最初は、エコ・キャップが何なのか、集めてどうするのか訳もわからずにやっていたが、小学校3年生の道徳の時間に、エコ・キャップがどういう使われ方をしているのかを授業を通して知ることができた。

エコ・キャップとは、医者の少ない国にいる病気をかかえた子供などにワクチンを提供するためにキャップを集めてワクチンを作る活動である。今では、他国にボランティアとして行く医者は多くいるが、それでも助からない命がある。そのような状況で私たちがボランティアとして参加できる数少ない活動の一つがエコ・キャップである。

私は、そのことを知ったとき、見ず知らずの人で言葉さえ通じない人でも、私たちの普段の生活から出るごみで命を助けることができるのならば、学校全体で行ったり、地域で企画してやるべきだと思った。私の住んでいる地域ではスーパーの入り口に、エコ・キャップを集めるボックスが設置してあったり、電柱に箱がくくりつけられているなど身近な所にある。

また、エコ・キャップを知らない人や、知っていてもやらない人がたくさんいると思われる。ですから、今後認知度を上げたり身近な所にボックスを設置したりして、ワクチンが必要な人の助けになれたらいいと思った。

高校2年生　準グランプリ

2年5組　**尾前　隼士**君

近年、地球温暖化が進み首都圏では、ヒートアイランドなどの問題がたくさん出てしまっている。そんな中、「エコ・シティー」という言葉が多く発せられている。

そもそも、「エコ・シティー」とは、環境に良い設備や機械などを個人から町へと規模を大きくしていくことを言う。家庭用ソーラーパネルなどが普及してきたため、オフィスビルやお店などにパネルを設置する企業が増えてきた。このようなことがエコ・シティー特有のことかもしれない。

最近は、大手町や丸の内の高層ビル群にも青々とした植物や街路樹などが増えてきたように思う。また、ビルの側面に植物を植えたりと「緑化」が進んでいる。この活動も、企業側の努力なのかもしれないが、企業と企業が手を取り合い地球のためになる町作りをしていくことが大切なのかと思う。

太陽光、風力、地熱などの自然エネルギーは、東北東日本大震災以来、多くのメディア、企業には注目され多くの人が自然エネルギーに移り変わろうとしている。これは、日本全体の変換期かもしれないが、僕は全世界の変換期だと思う。地球を変えるには自分が変わり、人が変わり、町が変わり、国が変わらないといけない。今、やっと「エコ・シティー」と題し町が少しずつ変わろうとしている。先進国と呼ばれる日本が先陣切って変わっていかなければならないと思う。

2014年度学校運営方針

5月号で掲載した2014年度の学校運営方針重点目標について、詳しく紹介していきます。

2014年度の重点目標　PART.3

8 大学と連携したキャリア教育を推進する

本校は付属相模高校とともに、学園のキャリア教育推進モデル校として昨年度より研究と実践を重ねてきました。企業や外部団体と連携したキャリア教育はもちろんですが、大学付属校として一貫教育体制を活かした、大学との連携によるキャリア教育も構築していきたいと考えています。

9 アクティブボードを用いた組織的な授業改革を推進するとともに、e-Learningの充実と拡大利用ならびにICT教育に向けた取り組みを行う

2008年に全教室にアクティブボードが設置され、多くの授業で日常的に活用されるようになりました。現在の本校は導入期を終えて、次の発展期の段階に入ったと言えます。2015年度から導入予定の生徒用タブレット型端末と合わせて、今後もICT機器をより効果的に教育に活用する方法を研究していきます。

10 中等部・高校・大学10年間の一貫教育を充実させる

中等部・高校・大学の10年間、一貫した教育方針のもとで人を育てていく。このことを全教職員が強く意識して日々の指導にあたっていきます。教科の授業、学級・学年の活動、部活動等、学校生活のあらゆる面で一貫教育を推し進めていきます。

11 教員研修の質の向上

学校全体でも、教科単位でも定期的に教員研修を行っていますが、現状に甘んじることなく、一層質の高い研修となるよう工夫改善を続けていきます。教員自身が常に向上心を持ち、学び続ける人であるためにも、継続的な研修は不可欠であると考えています。

UAE児童訪日プログラム

6月4日午前に、UAE（アラブ首長国連邦）のアブダビ日本人学校6年生のマンスーリ君とホサーニ君とご家族、アブダビ日本人学校教員、日本国際協力センター(JICE)、アブダビ石油、経済産業省のスタッフご一行が本校を訪れました。

これは、UAEと日本がこれまで以上に良好な関係を保つために、両国政府が計画したプログラムの一つです。

校長室で自己紹介や挨拶などをした後、授業見学・施設見学をしました。地下3階の武道館では「先日（2月25日）アブダビのムハンマド皇太子がご来校されて、ここで柔剣道の部活動をご覧になりましたよ」と話すと、とてもびっくりしていました。

マンスーリ君とホサーニ君は高輪台をとても気に入った様子で、「アブダビの中学校を卒業したら、ぜひ高輪台高校に入学したい」と目を輝かせて話していました。

現在本校では、SSH活動で、ロシアのガスプロム校との交流を進めていますが、これからは、UAEの高校ともお互いの研究成果について発表し合うなど交流を計画しています。

TOKAI キャンパスメッセージ

看護学科は楽しい、でも厳しい

東海大学健康科学部看護学科主任教授　城生 弘美

看護学科では「保健医療福祉を必要とする人々のために良い看護を提供できる人材」を教育し、「看護師国家試験受験資格」を取得するために学習を積んでいます。2012年度入学生から国の方針変更により「保健師国家試験受験資格」については選抜制になりました。本学科では、希望者のうち学内の選抜を通った人がより多くの単位を履修して「保健師国家試験受験資格」を得ることになります。看護師・保健師は「人の健康」を守るための仕事です。人と関わることが好きであること、規則的な生活習慣が身についていて自分の健康管理ができることが基本です。そして最も重要なことは「看護師になりたい」「人々の健康問題に取り組みたい」という気持ちがしっかりあることです。なぜなら、国家試験受験のためには、国で決められた科目の単位が卒業に必要な総単位数の約2/3を占めます。この中には講義や演習（実技の反復練習）の他に、実習という病院や施設を利用している方々に直接関わりながら、看護を追求する現場での学習があります。これらの施設実習では、同時に「命」や「年齢を重ねること」「家族」等について考え、奥が深いです。

皆さんの先輩は19名在籍しています（1年生5名、2年生7名、3年生3名、4年生4名）。看護に志のある方、ぜひ見学に来て先輩の話を聞いてみてください。

「看護過程」の授業

看護技術の実習

看護師という夢に向かって

野田 紗貴
東海大学健康科学部看護学科2年
（高輪台高校中等部2010年3月卒業
高輪台高校2013年3月卒業）

健康科学部看護学科では看護の手技を学ぶ前に「看護とは何か」「コミュニケーションの取り方」などを学びます。私は入学したらすぐに看護技術を学ぶのだと思っていたので、早く技術の勉強がしたいと思っていました。でも、実習に行ってみて、このような授業がとても大切であると、今は思っています。

1年生後期から看護技術の授業や看護過程の勉強が始まり、グループに分かれて看護技術を学んだり、授業時間内ではできなかったことを時間外でディスカッションしたりしました。グループで話し合うことでさまざまな意見を聞くことができ、一人で考えるよりも多くのことを学びました。また多くの先生がグループごとに細かく丁寧に見てくださったり、アドバイスをくださったりしてくれるのでとても勉強になりました。そして、2月に初めての実習が1週間ありました。始まる前は緊張し怖い気持ちが強かったのですが、実習病棟の指導者の方がとても親切でしたので、たくさんのことを学び、充実した日々でした。

一年間の学習を修了した今、患者さんから信頼される看護師になりたいと思い、仲間と一緒に頑張るのがとても楽しいです。皆さんも夢に向かって頑張ってください。

お知らせ

2014 東海カルチャーセミナー

❖日 時：9月6日（土）13：00～15：10（12：30受付開始）
❖場 所：本校アリーナ

第1部：本校吹奏楽部によるコンサート　指揮：畠田 貴生
第2部：講演会　講　師：石井 直明　先生（東海大学医学部 教授）
テーマ：「食育を通じた体づくり」

行事予定

September 9月

1日(月)　避難訓練
　　朝礼[夏期正制服着用]　45分短縮授業
6日(土)　短縮授業
　　一斉公開授業
　　東海カルチャーセミナー(13:00～)
　　後援会委員総会(15:10～)
9日(火)　中学校巡回
　　生徒自宅学習日
11日(木)　生徒による授業評価アンケート(2回目)
15日(月)　敬老の日
16日(火)　前期期末試験(中等部 ～18日、高校 ～19日)
　　校医相談日⑤
19日(金)　中等部写生大会(雨天時午前中授業)
20日(土)　採点日　生徒自宅学習日
22日(月)　答案返却日
23日(火)　秋分の日
24日(水)　生徒自宅学習日
　　専門医によるカウンセリング③
25日(木)　生徒自宅学習日　成績不振者指導
27日(土)　短縮授業
　　保護者会②(家庭通知表配布 14:30～16:30)
28日(日)　付属高校生のためのオープンキャンパス
　　(高2 湘南キャンパス)
29日(月)　授業日(中等部、高1、高3)
　　振替休日(高2)
30日(火)　授業日

October 10月

1日(水)　後期始業式[冬期正制服着用]
　　45分短縮授業
2日(木)　中学校教員説明会(16:00～)
3日(金)　塾教員説明会(10:00～)
7日(火)　**第13回中等部・高校合同体育祭**
　　(さいたま総合グラウンド)
　　延期の場合は授業日
8日(水)　建学祭開祭式(7時限)
9日(木)・10日(金)　建学祭準備日
11日(土)・12日(日)　**第50回建学祭**
13日(月)　体育の日
14日(火)　建学祭閉祭式
　　45分短縮授業
　　学校保健委員会②　安全衛生委員会②
15日(水)　振替休日(10/12分)
16日(木)　学年集会(中1、高1)
17日(金)　第13回中等部・高校合同体育祭予備日
　　(10/7体育祭実施・延期の場合は授業日)
20日(月)　教育実習(～11/11)
21日(火)　高1スポーツ大会[さいたま総合グラウンド](体育移動授業)
22日(水)　高2スポーツ大会[さいたま総合グラウンド](体育移動授業)
24日(金)　高3スポーツ大会[さいたま総合グラウンド](体育移動授業)
25日(土)　SSH成果報告会　特別時程
26日(日)　**高校受験生・保護者学校説明見学会(3回目)**
28日(火)・29日(水)・31日(金)　スポーツ大会(予備日)
30日(木)　生徒会立会演説会(中等部:アリーナ・高校:放送)

編集後記

第一次世界大戦が勃発するきっかけとなった「サラエボ事件」から今年で100年が経過した。日本は日英同盟に基づき連合国陣営に加わり参戦。この戦争では、1千万人という人たちの尊い命が失われた。7月には、集団的自衛権の行使容認に関する憲法解釈の変更が閣議決定した。わが国は過去の反省から集団的自衛権の行使は憲法に違反するとの見解を示してきた。しかし、その考えが大きく転換した。“蟻の一穴”という言葉がある。平和な日本をどう維持するか考えていきたい。(ほ)

東海大学付属高輪台高等学校・中等部
TEL.03(3448)4011　FAX.03(3448)4020　ホームページ:http://www.takanawadai.tokai.ed.jp/